

宮崎県都農町（国内 12 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要（令和 2 年 12 月 2 日実施）

令和 2 年 12 月 2 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、平野部の用水路と河川沿いに位置し、付近は雑木林や畑に囲まれており、高速道路が走っている。
- ② 農場から約 700m の距離にあるため池では、カルガモ 146 羽、オシドリ 46 羽、マガモ 40 羽等、200 羽以上の水鳥類が確認された。
- ③ 当該農場には平飼いの開放鶏舎が 3 棟あり、発生時はすべての鶏舎で、肉用鶏が飼養されていた。発生鶏舎は、用水路から最も近くに位置する鶏舎であった。

2 通報までの経緯

- ① 管理人によると、発生鶏舎における 1 日あたりの死亡鶏は、11 月 28 日までの過去 21 日間は 0~5 羽で推移していたところ、11 月 29 日に 16 羽に増加したが、気温が低い日にロールカーテンを少し開けていた影響と考え通報はしなかったとのこと。その後 11 月 30 日に死亡羽数は 6 羽と減少したが、12 月 1 日に 34 羽の死亡鶏が確認されたことから、農場の管理獣医師が簡易検査を実施したところ、陽性反応が確認されたため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 管理人によると、11 月 30 日夜には異常は見られず、12 月 1 日に死亡鶏が発生鶏舎内に散在していたとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では 3 名の従業員が専属で管理を行っており、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏の回収を行っていた。
- ② 従業員ごとに担当する鶏舎は決まっておらず、すべての従業員がいずれの鶏舎においても作業する可能性があった。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人によると、従業員は農場専用の作業着と手袋、長靴を使用していた。また、鶏舎毎に専用の長靴と踏み込み消毒槽を設置しており、鶏舎毎の手指消毒を実施しているとのこと。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 飼養鶏への給与水は、水道水を消毒の後、各鶏舎に供給されている。
- ④ 健康観察時に回収した死亡鶏は、袋に入れ、農場入口から約 50m 離れた、農場入口につながる坂の入口に設置された当該農場専用の死亡鶏回収箱に保管しており、回収業者が回収していた。
- ⑤ 管理人によると、全鶏舎同じタイミングでオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行うとともに、鶏糞を業者に委託し、排出していたとのこと。
- ⑥ 管理人によると、普段から鶏舎入口に消石灰散布を散布しており、雛の導入時には農場入口に繋がる坂の下から鶏舎に入るまでの通路に消石灰を散布するとのこと。
- ⑦ 管理人によると、車両が当該農場に出入りする際、農場の入口に設置された動力噴霧器により消毒しているとのこと。
- ⑧ 鶏舎の左右及び奥の外壁の外側には防鳥ネット（マス目は約 2.0×2.0cm）が設置され

ていた。発生鶏舎において、入口扉横および側面の防鳥ネットの内側には、金網が設置され、その外側の上部及び下部にロールカーテンが設置されている。また、入口横及びの奥側の壁には跳ね上げ式の窓が設置されていた。管理人によると、発生時には、跳ね上げ式の窓は閉じていたとのこと。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎の外側には防鳥ネットが設置されていたが、一部に破損が認められた。
- ② 発生鶏舎の側面の金網には一部に破損が認められたほか、鶏舎壁面には小型の野生動物が侵入可能な約 3cm の隙間が確認された箇所があった。
- ③ 管理人によると、鶏舎内でネズミを見かけることはたまにあり、殺鼠剤の設置等のネズミ対策を行っているとのこと。
- ④ 調査時に鶏舎周囲で野鳥のものと思われる糞を確認した。管理人によると、農場周辺ではカラス類、タカ類、サギ類を観察しており、鶏舎内にスズメが確認されることもまれにあるとのこと。調査時には、農場周辺でハシブトガラス、ノスリなどの野鳥を確認した。